

| | | | |
|--|-----------|-------------------|---|
| 授業科目名： 総合演習 I | | | 担当教員名： 山本吉宣、浅羽祐樹、黒田俊郎、Ka Po Ng, 袴田茂樹、渡邊松男、窪田悠一、藤井誠二、李佳、陳柏宇、上村威 |
| 選択/必修： 必修 | 単位数： 1 | セメスター： 1 前/1 後 | 開講言語： 日本語 |
| <p>○授業の到達目標及びテーマ</p> <p>初年度の学生を対象とし、研究の在り方の基礎を涵養する。加えて、研究成果の発表、また倫理的なルールの基本を教授、体得するように図る。</p> | | | |
| <p>○授業の概要</p> <p>研究仮説の設定、資料の収集、文献検索の方法や文献読解力の養成など、研究を行う上で必要な基礎的な能力の育成に努める。あわせて、論文作成等にかかる剽窃、盗用等の不正行為の禁止に係る指導なども行う。</p> <p>また学生の研究テーマや関心に基づき、出来るだけ学生の興味関心や問題意識を生かしつつ研究の方向性についての指導を行う。</p> | | | |
| <p>○授業の方法</p> <p>授業は日本語で行われる。</p> <p>授業計画は予定であり、履修者の研究関心やバックグラウンド等を考慮し、柔軟に授業内容は組み立てられる。</p> | | | |
| <p>○授業計画</p> <p>第1回 (テーマ) 授業内容の紹介 授業の目的、内容等を紹介する。</p> <p>第2回～第4回 研究とは何か 主要分野(国際社会、地域国際関係、各国研究)の教員が、自己の研究歴などを挙げながら、研究とは何かを教授し、学生と討論する。</p> <p>第5回～第7回 研究仮説の設定 研究を行うに当たって、理論的、現実的、さらには政策的に意味のある研究仮説はいかなるものであり、それをいかに判断するかを検討する。その際、研究を行うとき必須とされる先行研究の意味、意義を明確にする。適切なくつかの研究論文をベースとして、そこでの研究仮説は何か、なぜそのような研究仮説が取り上げられたかを明らかにしつつ討論を進める。</p> <p>第8回～第10回 検証の手続き 研究仮説が示された場合、それをいかに検証していくかを検討する。検証という場合、大きく分けて、了解的なもの(interpretative)と説明的なもの(explanatory)なものが存在する。それぞれの検証方法について、典型的な論文や著作を取り上げ、研究仮説がいかに検証されているかを明らかにする。たとえば、後者は、適切なデータを収集し、統計的な検証を行うことを典型的な検証方法とするが、データをどのように収集するか、というようなことも重要な研究の一過程となる。異なる検証の在り方、それぞれに精通した教員が具体的な例を挙げながら講義、討論を行う。</p> <p>第11回～第12回 研究結果の意味 研究仮説があり、それが適切に検証された場合、その結果はどのような意味を持つのであろうか。 一つは、純学問的に、先行研究からみて、どのくらい付加価値があるのか、将来の研究にどの</p> | | | |

ような意味があるのか、という視点がある。それと同時に、二つには、いわゆる政策的な含意がどのようなものであるのか、という視点も重要である。このような二つの視点から、具体的な研究論文を取り上げ、その分野を専門とする教員が論点を提供し、討論を行う。

第13回～第14回 研究者の倫理

研究者の倫理として2つのことを検討する。一つは、論文の作成、発表に関して、剽窃、データの不正操作、著作権などについて、実際に起きたことを例に挙げつつ、討論する。その際、適切な引用の在り方などをも取り上げる。今一つは、研究・教育上の適切な「人間関係」（教員と学生との関係）の在り方であり、広く人権問題、とくにアカハラ、セクハラ、パワハラなどを取り上げて討論する。以上のことは、本研究科での教育、研究だけではなく、本研究科の修了生にも重要な規範を教えるものである。

第15回 まとめ

授業で講ぜられ、また討論されたことをまとめ、将来の課題と展望を討論する。

○テキスト

適宜、紹介する。

○参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

○学生に対する評価

第1回目の授業で説明する。